令和6年度

社会課題を解決する組織として、自治体職員の特性とチーム設定の効果を検証する

【筑波大学大学院 木野研究グループ

（連携課：人事課人事担当・デジタル戦略室（デジタル戦略タスクフォース））】

研究の目的（背景・課題・意義）

◆背景

自治体の事業実行にあたり、多様なステークホルダーを巻き込み推進していく必要がある。
自治体に取り組む社会課題解決事業の遂行に関して、自治体職員チームは重要な役割を担う。

◆課題

現在、職員のチーム組成に関しては、職員個々の特性分析などを用いた組成が出来ていない。個々の職員の特性を知ることにより、より効果を出せるチーム作りが出来るのではないかと考えた。この仮説の検証を行う必要がある。

◆意義

自治体の社会課題解決事業は非常に重要であり、難易度の高い事業である。より効果の出せるチーム作りにより、事業を成功させ、職員のエンゲージメントをあげることができると考える。

◆姫路市が策定している計画との関連

現在、デジタル戦略タスクフォースにて企画検討している職員エンゲージメント向上の一環として、職員の特性を考慮したチーム作りがある。職員個々の特性を考慮したチームが効果的であるかの検証を行い、企画検討の効果検証を行う。

令和6年度

社会課題を解決する組織として、自治体職員の特性とチーム設定の効果を検証する

【筑波大学大学院 木野研究グループ

（連携課：人事課人事担当・デジタル戦略室（デジタル戦略タスクフォース））】

研究内容・主な実施計画

- **6月下旬**：姫路市連携課との顔合わせ
- **7月上旬**：今年度実施する研究についての利用ツールやアウトプットについて詳細を調査
- **7月中旬～8月下旬**：
職員の特性の調査（20名程度の特性診断の実施）
職員インタビュー・アンケートなどによる調査分析
→インタビューは今までの職員チームでの事業遂行の状況（成功や失敗）や特性診断への期待など。（10名程度のインタビュー）
- **9月下旬～10月初旬**：
仮想チームの定義とワークショップ（ゲーム）による効果検証
（特性診断実施の20名程度参加のワークショップ実施）
→特性診断により、最適と考えられるチーム（多様な特性）と偏った特性のチームを作り、チームの成果（生産性・効率性・品質など）を検証すると共に、後日のインタビューにて、参加メンバーの活動しやすさや満足度などを確認し、分析に活かす。
- **10月**：インタビュー・アンケートおよびワークショップ結果の分析と報告資料作成
- **11月**：中間報告会予定
- **11月下旬**：職員の特性調査やチーム編成について、インタビュー内容やワークショップの結果について分析を行う
- **12月下旬**：2回目インタビューによる研究結果取りまとめ
- **1月下旬**：研究成果報告書データを姫路市に提出
- **2月中旬**：成果発表会予定
→自治体職員の特性やチーム編成について、得られた結果を取りまとめ成果発表を行う